

東北大学 COI-NEXT ネイチャーポジティブ発展社会実現拠点 シンセシス研究プロジェクト 公募要項

1. 趣旨

東北大学 COI-NEXT ネイチャーポジティブ発展社会実現拠点（NP 拠点）（※）では、ネイチャーポジティブ社会の実現に向けて、異分野の連携を通じた新しい知の統合（シンセシス）の創出を目指しています。ここでいうシンセシス研究とは、自然科学のみならず、人文・社会科学（経済学、哲学等）や行動科学、さらには地域知など、多様な分野・主体が持つ知見やデータを統合し、新しい概念や実践知を生み出す研究です。その成果は、社会課題の解決に向けたホワイトペーパー（課題や解決策の根拠を示す文書）やブループリント（実装に向けた設計図）につながる学術成果として社会へ還元されることを目指しています。

NP 拠点では、このようなシンセシス研究に挑戦する研究プロジェクトを公募します。

本公募では、既存の研究枠組みを超えた新しい発想を歓迎し、失敗を恐れず、既存データや知見を統合して未知の領域に踏み込む挑戦的提案を期待します。

※NP 拠点は、科学技術振興機構（JST）の「共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT）」に採択された東北大学を代表機関とする産官学民の共創プロジェクトです。ネイチャーポジティブ発展社会の実現をビジョンに掲げています。

・ NP 拠点：<https://www.naturepositive-hub.jp/>

・ COI-NEXT：<https://www.jst.go.jp/pf/platform/outline.html>

2. 研究プロジェクトの位置づけ

- 採択された研究プロジェクトは、NP 拠点の研究課題に位置づけられます。
- 各プロジェクトには、NP 拠点のブリッジフェローを配置し、異分野連携や成果のとりまとめ等を支援する予定です。

3. 公募対象となるシンセシス研究

（1）シンセシス研究の類型と例

I 概念統合型（Conceptual Synthesis）：異分野を貫く概念枠組み・因果構造・整理軸を提示。図や概念モデルによって「同じ言葉で議論できる状態」をつくる。

例）生物多様性指標と社会・経済的価値が、どこで・どう接続するかを可視化。生物多様性指標を経済・政策の言葉に翻訳するための基本フレーム提供。

II 証拠統合型（Evidence Synthesis）：多数の既存研究・知見を統合。合意点と不一致点、条件依存性を明確化。メタ解析に限らず、定性的整理も含む。

例)「多様性が重要」という主張について、どこまで科学的に支持されているか明確化。「生物多様性は大事」という主張の科学的強度と限界を示す。

III 既存データ再構成型 (Data-driven Synthesis (Existing Data Reconstruction Type)) : 新規データ取得は行わない。既存データベース・長期データを新しい問いで再解析。スケール横断 (地域→国→全球) を行う。

例) 世界中の既存データを統合し、人為的土地利用が生物多様性に与える影響を定量化 (Newbold et al. 2015)。優先地域や介入強度を考えるための、空間的な裏付け。

IV 翻訳・境界型 (Boundary / Translation Synthesis) : 科学と政策・実装の間の「ズレ」そのものを研究対象にする。知識が使われる条件・使われない理由を理論化。

例) 科学知が政策や実装で使われる条件を整理、良い科学が必ずしも使われない理由を理論化。(Cash et al. 2003)。「科学的に正しいだけ」では足りない理由を説明。

(2) 想定する研究アプローチ

研究アプローチとして以下①～④を想定しています。研究代表者自らによる個人研究も可とします。また、AI の効果的な活用を推奨します。

- ①異分野の研究者・実務家による濃密な議論やワークショップ
- ②既存の知見やデータを加工・統合し、新たな手法や問いで再解析
- ③地域関係者・行政・企業等への壁打ち・意見交換
- ④合宿等による集中的な論文執筆

(3) 本公募では対象としない研究アプローチ

新規のデータ取得 (現地調査、現地観測、ラボ実験による生データ・オリジナルデータの取得) や機器・ツール開発などは対象外とします。ただし、既存データを購入して活用することは可とします。

4. 応募要件

(1) 申請者 (研究代表者) は国内の大学・研究機関に所属していること。研究協力者として実務者 (企業、自治体、NPO 等の実務者) の参画も歓迎します。

(2) NP 拠点への参画・貢献が可能なこと

・研究代表者の所属機関が NP 拠点に参画していない場合、採択後に拠点に参画いただくことを想定しています。採択後に参画の手続きをご案内いたします。

・研究代表者には、NP 拠点の会合等への参加、研究の進捗及び成果の共有をお願いする予定です。

(3) 異分野融合による新しい知の創出に強い意欲をもっていること

5. 研究期間と成果

期間：1 年又は 2 年から選択可能です。

本公募の研究プロジェクトは 2027 年 4 月開始を予定しています。

成果：研究プロジェクト期間中に、学術誌への論文投稿を行うことを基本とします。

学術誌への投稿（学術成果）であれば査読の有無は問いません。

6. NP 拠点が提供可能なリソース

（１）研究期間に関わらずプロジェクト 1 件あたり原則 250 万円を上限に研究費を支援します。

（２）作業や打合せ、会合等に NPIB（※）を利用いただけます。

（３）研究テーマに応じて、NP 拠点が有する人的ネットワーク（研究者、企業、地域サイト、行政機関）や情報・知見（ネイチャーポジティブに関する国内外の最新動向、研究成果等）を活用いただけます。

（４）NP 拠点のブリッジフェローが異分野連携や成果の取りまとめ等を支援します。

※NPIB：東北大学片平キャンパス Global Connect Hub 棟 5 階にある共創スペース Nature Positive Innovation Base の略称。NP 拠点の事務局もここに 있습니다。

7. 採択件数

最大で 10 件程度を予定しています。

8. 申請方法

オンラインフォームから申請登録ください。

<https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSfRL9y1UlvemcLiPhiKX0yrlqJlwI28Af7Rjh469pK6xBIXkg/viewform>

研究計画調書（様式 1）、支出計画書（様式 2）を作成し、上記オンラインフォームからアップロードによりご提出ください。

申請締切：2026 年 10 月 30 日（金）

9. 選考方法

書類審査の上、研究代表者とのヒアリング（意見交換）を実施します。

ヒアリングでは、申請内容の確認に加え、研究の実施体制や進め方について意見交換を行い、必要に応じて研究計画をブラッシュアップいただきます。

その結果を踏まえて、2026年12月頃に最終的な採択プロジェクトを決定します。

NP 拠点では、一方的な審査ではなく、申請者との対話を通じてより良い研究プロジェクトを共に形成していくことを重視しています。

<審査の観点>

- NP 拠点のビジョン実現への貢献可能性
- シンセシス研究としての独創性・新規性
- ホワイトペーパー、ブループリントへの展開可能性
- NP 拠点のシーズ・ニーズとの接続性
- 研究計画・実施体制の妥当性

なお、本公募では、完成度の高い計画よりも、新しい知の創出につながる挑戦性や発展可能性を重視します。

10. その他

(1) 知的財産権の取扱い

知的財産が創出された場合は、関係者による協議のうえ取扱いを決定するものとします。

(2) 研究経費の取り扱い

1) 研究経費として計上可能な経費（使途・費目）は以下①～③とします。備品購入費や雇用経費は原則対象外とします。また、NP 拠点で成果報告いただく際の旅費や学会発表にかかる経費は、必要に応じて NP 拠点から別途手当しますので、研究経費としての計上は不要です。

①研究会合等に係る経費（旅費、会場費、会議費、消耗品費、ファシリテーターへの謝金等）

②データの統合・分析に係る経費（データ購入費、データ加工費、分析ソフト・分析ツールの利用費等）

③その他（論文のオープンアクセス代、外部協力者への謝金等）

2) 採択件数により経費配分額は変動する可能性があります。

3) 研究経費は、JST から研究代表者の所属機関に配賦することが可能です。その際、JST と当該所属機関との間で受託研究契約を締結していただきます。

4) 研究経費の配分額は年度ごとに決定します。研究期間が2か年の研究プロジェクトの場合も、年度ごとに研究経費を計上ください。

(3) 謝辞の記載

研究プロジェクトの成果を論文として発表される場合は、謝辞に以下記載願います。

【和文】本研究は、JST 共創の場形成支援プログラム JPMJPF2206 の支援を受けたものです。

【英文】 This work was supported by JST Grant Number JPMJPF2206.

11. 問合せ先

東北大学 COI-NEXT ネイチャーポジティブ発展社会実現拠点

事務支援室長 佐々木 美由紀

E-mail : nature_positive_hub(at)grp.tohoku.ac.jp

TEL : 022-217-5055

※(at)を@に変更して送信してください。

※シンセシス研究に関する質問等は、下記の問合せフォームからお願いいたします。

問合せフォーム <https://forms.gle/7V3cypZNoMFaEhQLA>